

「川をきれいにする児童図画」審査会

講評：審査委員長 山形県教育センター指導主事 丸山 あき子

〔はじめに〕

今年度の「川をきれいにする児童図画コンクール」には、（県内28市町村の115の小学校から、ポスターの部に1,278点、川景の部に566点）合計1,844点の応募がありました。平成4年度から始まりましたこのコンクールは、今回で33回を迎え、県内で開催されている小学生対象の絵画やポスター募集の中でも、大規模なコンクールとなっています。これは、山形県の小学生の皆さんが真剣に川を大切に考えている表れだと思います。このようにたくさんのポスターや絵を一生懸命に描いてくれたことは大変うれしく、川に対する思いが広がり、定着していることは、本当に素晴らしいことだと思います。



〔川への思いを大切に〕

元気よくいきいきと感動や思いが描かれた作品、時間をかけて丁寧に表現された作品など、山形県の川を大切に思う気持ちが伝わる作品と数多く出会えて、うれしく感じました。

ポスターの部では、「ふるさとのきれいな川を残したい」というメッセージが強く感じられ、川景の部では、実際に川に行き受けた印象や思い出などから、自分で見つけ出した川への愛着が伝わりました。どちらの部門も、きれいな川を大切に思う皆さんだからこそ生み出された作品ばかりでした。

〔出品者の皆さんへ〕


皆さんがこのポスターや絵を描く前に大切にしてほしいことがあります。まずは、川への思いや体験をたくさん思い出してみましょ。そして、家族やお友だちと話しをしましょ。川への思いは一人一人違います。川の色や形の捉え方もそれぞれ違っていています。勇気を持って色や形に表すということは、線が曲がっても、色がにじんでも、あなたただけのかけがえのない足跡になります。自分らしさを大切に、何を描こうか、何を伝えようか、あれこれ考えながら元気いっぱい描いてください。

作品を完成させるまでの間は、楽しくもありますが、悩みや苦勞も連続します。自分を信じて自分の力で乗り越えていくことが、ポスターや絵を描く面白さでもあります。チャレンジしながらどんどん描いていくと、素敵な作品が生まれますよ。

〔指導される方へのお願い〕

以下に指導される方（学校の先生や保護者の皆さん）へのお願いをいくつか記します。

① 児童の作品は本人自身のもので、他の人が児童の作品（児童の心）に手を加えることはできません。活動の際、テーマや制作に関わる支援は必要ですが、「これはこう描くんだよ」「こうしないとだめだよ」といった児童の創作意欲を削ぐような指示や手直しは避けてください。また、それぞれの個性や発達段階に応じて、他の児童と比べたり一様な技能を求めたりせず、その子らしさを大切に「得意技」や「好きなこと」で取り組ませてください。造形教育は、個々の違いを理解し、認めていくことが大切な出発点です。



② 描き始める前に川に対する思いをふくらませるための時間をじっくり取り、描きながら自分の思いや表し方を探究していくプロセスを大切にしてください。安易に出来合いのアイデアの模倣はさせず、自分で工夫したオリジナルの作品になるようご指導ください。感じることは絵が描けることより大切なことです。日々の生活の中で自ら感じ、考えるための様々な体験をさせてくださるようお願いします。

③ 子どもにとって、表したものを受け止めてくれる人がそばにいることは一番の応援になります。また、自分の思いを安心して外に表現できることが自信と自己肯定感につながります。子どもの考えや感じたことをそのまま受け止め、表現に共感する心と愛情をもって、楽しく対話を重ねて頂ければと思います。

〔今年度の受賞作品について〕

見ごたえのある作品ばかりで、審査するのも大変苦勞をしましたが、みなさんの心のこもった作品に囲まれ、とって素敵な時間を過ごすことができました。審査は技術面での順位を決めることではありません。応募者全員の中から今回の代表になってもらう、ということであり、作品すべてが特別で、全員が特別賞です。自分の作品を大切に飾って、次の作品にチャレンジしていきましょう。

それでは今年度の受賞作品を改めて見てみましょう。どちらの作品も作者の独自の視点が活かされ、見ている私たちもその世界に引き込まれていきます。

ポスターの部で特選を受賞した星佑奈さん（3年生）の作品は、「きれいな川を守ろう！」という明確なキャッチフレーズと、単純化された魚の形で構成されたシンプルながらも目を引くポスターです。よく見ると、川にたまったゴミが集まって魚を形作っています。そんな風刺的なアイデアからも、強いメッセージ性を感じました。見る者に大きな問いを投げかけており、心が痛むと同時に、私たちの一人一人の心がけできれいな川を守っていけるという希望や願いも感じます。ポスターとしての役割を十分に果たしている見事な作品です。

川景の部で特選を受賞した樋口昊良さん（5年生）の作品は、絵具やパステル等を巧みに使いこなし、独自の視点で丁寧に川を表現しています。水面の丸い模様の重なりがリズムを生み出し、躍動感を感じます。作品の前に立つと、自分が水面を覗いているような感覚になり、川に対する作者の愛情や感動はもちろん、そこに吹く風や音や温度、時間なども感じることができます。五感が刺激され、豊かな気持ちになり、樋口さんの世界に引き込まれる素敵な作品です。

〔結びに〕

「川をきれいにする児童図画コンクール」は、今年度も応募された皆さんの川への思いがたくさん詰まったものになりました。ぜひ皆さんの心の中の「山形県の川をもっときれいにしたい」という思いをさらに大きく育て、次の世代までつなげていただきたいと思います。